

販促カレンダー＜2月＞ 如月

28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1
火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水	火	月	日	土	金	木	水
			京都北野天満宮梅花祭	群馬上州白久保のお茶講	●天皇誕生日、京都五大力尊仁王会			千葉茂名の里芋祭	雨水、岡山はだか祭り	京都居籠祭（19日）	三重伊勢神宮祈年祭、青森八戸えんぶり（17日）	日蓮大聖人御誕生会	涅槃会、福井水海の田楽能舞、横手のかまくら（16日）	バレンタインデー、奈良長谷寺だおし（16日）			●建国記念日、東京徳丸北野神社田遊び、茨城水戸の梅まつり（11日）（3月末）	石川竹割り祭り、福島信夫三山眺参り・愛知豊橋鬼祭り（11日）	針供養		和歌山新倉神社御燈祭	初午、宮城米川水かぶり		立春、節分		二月礼者、三重尾鷲ヤーヤ祭り ※令和5年は神事のみ（5日）	



国際経営株式会社
KOKUSAIKEIEI co.,ltd

コロナ感染者の葬儀、制限を大幅緩和…「納体袋」は不要に

2023年1月7日 読売新聞

2023年
2月号

厚生労働省と経済産業省は6日、新型コロナウイルス感染症で亡くなった人の遺体の処置や葬儀に関する指針の改定版を公表し、自治体に通知した。遺体を包む「納体袋」を

不要とするなど制限を大幅に緩和した。コロナ以外の死亡者と同様に、故人に触れて最後の別れを告げることが可能となる。

指針は主に葬儀業者や医療機関に向けて、2020年7月に作成された。コロナで亡くなった人の遺体や葬儀の対応について、これまで▽体液に触れないよう納体袋に収容する▽遺体に触れることは控える▽通夜や葬儀は可能であれば開催を検討し、オンラインも推奨する。などと定めていた。

が可能で、外傷などがある場合を除いて納体袋への収容は不要とした。「遺体との接触を控える」との記載は削除し、触れた場合は手指消毒を求めた。

火葬や葬儀は、遺族の意向を踏まえて原則執り行うよう求めた。従来、葬儀などの参列を控えるよう求めてきた濃厚接触者の遺族については、検査での陰性確認を条件に出席を容認する。改定版の運用は、それぞれの医療機関や葬儀業者で準備が整い次第、始められる。

場の人数を制限している（38％）と合わせる」と半数超が制限を設けていた。一般の火葬と時間帯を分けるなど「コロナ枠」を設けている火葬場は6割超に上った。厚生省は一部で過剰な対応が取られているとして、改定版では一般の火葬と時間帯や動線を分けたり、拾骨を制限したりすることは不要と明記した。

厚生労働省は今回、遺体からの感染率が極めて低いとの最新の知見に基づいて改定した。遺体の鼻などに詰め物をして体液の漏出を防ぐ処置を取れば、通常の遺体と同様の取り扱い

厚生省が昨年9月10月に全国の火葬場1162施設を対象に行った調査では、コロナ死亡者の遺族に火葬場への「入場を認めていない」と回答した施設は16%で、「入

指針の改定について、葬儀業界の関係者は「遺族に寄り添う内容の指針となり、よりよい最期の別れの実現につながるのではないか」と評価する一方、「業者や遺族にとって大きな運用変更になる。国は相談窓口を設け、新たな指針の内容や制限緩和の根拠について、広く国民に周知してほしい」と注文をつけた。

雪だるま式に納骨堂が破綻するリスク 寺に擦り寄りボロ儲け企む罫（後編）

2022年10月29日 プレジデント社

実はこうした不透明な納骨堂経営が、近年横行しており一般的なスキームはこうだ。寺院に近い、葬儀社や石材店などの周辺産業の民間業者が、伽藍修繕などの巨費を必要としている住職に擦り寄ってくる。そして、伽藍の修繕費を、無宗教式の永代供養納骨堂ビジネスで賄える、などと提案してくる。民間業者が単体で納骨堂をつくればよい話だが、実は先述のように霊園や納骨堂事業の認可は、行政以外ではほぼ宗教法人にしか与えられていない。したがって、宗教法人の名義を借りて納骨堂を運営するのだ。そして民間業者の資本で納骨堂が建設される。そのため、納骨堂の永代使用料の売上げのほとんどは業者が手にし、宗教法人にはほとんど入らないことが多い。

一見、宗教法人にメリットがないように思えるがそうではない。永代使用料収入は入らない替わりに、契約数にともなう、葬儀や法事の布施が入る。建設費などの初期投資が不要で、かつ、布施収入が増える可能性を秘めているわけだから、伽藍修繕などを控えている寺院にとってはリスクの少ない事業のように思え、納骨堂経営話は「渡りに船」というわけだ。

が、しかし、そこに大きな落とし穴が隠されている。あくまでも、事業の名義上の契約者は宗教法人なのだ。納骨堂建設や融資も、宗教法人名義でしか進められない。仮に納骨堂がオープンしても思うように売れなかつたり、あるいは民間業者の経営が傾いたりした場合に、納骨堂ビジネスから撤退する

と、全ての責任は名義を貸した宗教法人にのしかかることになる。こうしたスキームで、多くの宗教法人が利用されているのだ。ちなみに、宗教法人の「名義貸し」は違法である。

現在、東京都内には「自動搬送式納骨堂」と呼ばれるタイプの巨大ビル型納骨堂が30棟ほどあるといわれている。自動搬送式納骨堂とは、ICカードをかざせば納骨カローが自動的に運ばれてきて、参拝ブースでお参りができるハイテク納骨堂だ。待ち合いロビーなどもシテイホテルを思わせるようなしつらい。その分、ロッカー式納骨堂に比べて、割高ではある。「主要ターミナルからも近く至便で、買い物ついでに、仕事帰りの墓参りもできるハイテク納骨堂」が、売り文句だ。

多死社会や改葬ブームを背景にして10年ほど前から、大手葬儀会社や大手仏具・石材販売会社は寺院とタイアップして、この自動搬送式納骨堂事業に乗り出してきた。近年では、

外資系金融会社も納骨堂事業に参入していた。1棟あたり、数千基から1万基以上の規模感であり1棟あたりの建設費は数十億円に上る。最初はよかった。だが、数年もすれば納骨堂の供給過多になり、需要が追いつかなくなってきた。民間企業の経営を圧迫してきた。地方都市の自動搬送式納骨堂では破綻事例も出てきている。仮に都内の巨大自動搬送式納骨堂が破綻したり、競売にかけられたりした場合は、札幌の事例とは比べものにならないほどの混乱が生じるだろう。アナログのロッカー式納骨堂とは違い、自動搬送式納骨堂はコンピュータ制御であり、通電が止まり、システムが動かなくなれば遺骨の取り出しは難しくなる。

「自動搬送式納骨堂神話」が崩壊すれば、不安心理が増大して顧客離れが進み、雪だるま式に納骨堂が破綻していく危険性もある。

気丈なあの子が泣き崩れて：「合掌、フライハイ」と空耳

聞き間違えといえは父のお通夜。肅々と会が進行する中、司会が「それでは皆様。合掌、Fly High」と。あー最近宗教観も多様だしねそんな感じで声掛けるんだ。と思つた瞬間「合掌、礼拝」だと気づいた私は盛大に吹き出し顔を覆った。母と弟は「ああ、気丈なあの子が泣き崩れて」ともらい泣きしていた。ち、違うんです……！

この話に対し、ネットでは「不謹慎だけど笑った」「お通夜に出たら思い出し笑いしそう」といったリプライのほか、「笑ってはいけない場に限って笑いの神が降臨する時ってありますよね」といった声が寄せられています。不謹慎かもしれませんが、笑って送ってあげたいものですね……。

ねとらほ
山田あすかさんのツイートより

ひばり、裕次郎、角栄が送られた… 青山葬儀所が建て替え

数多くの著名人の葬儀会場になってきた都立青山葬儀所が、全面建て替えを計画している。すでに葬儀所は解体を終えており、約3年後の2025年には新施設に生まれ変わる見通し。「家族葬」が一般化する中で、著名人の弔いですら簡素化し、「アフターコロナ」における葬送の規模感が見えにくくなっている。青山葬儀所は、どのように生まれ変わるのか。葬送文化のバロメーター的な存在だけに、リニューアル後の姿を業界は注視している。

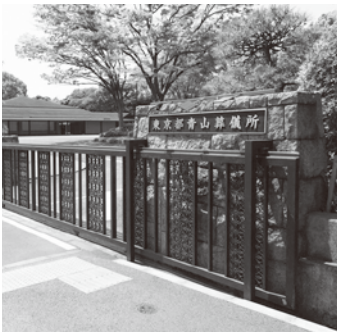
青山葬儀所の歴史は古い。開所は1901年だ。青山葬儀所は六本木や青山一丁目からも近く、閑静な都立青山霊園に面している。敷地面積はおよそ3000坪。青山葬儀所では、弔われるほうも弔う側もVIPであることが少なくない。多くのメディアの取材にも対応でき、ホテルでのお別れの会とは違って他の宿泊客や近隣住民に迷惑をかけることもなかった。

青山葬儀所では、1日1組限定で受け入れていた。通夜を入れれば1組あたり2日間程度を要する。そのため、年間の利用数はさほど多くはない。とても贅沢な斎場であったことがうかがえる。そんな稀有な斎場は、著名人の葬式において重宝されてきた。バブル期、大規模な葬式がもてはやされると芸能人や政治家の告別式、企業幹部が社葬を行う会場として、真つ先に候補に挙がる存在になった。新聞の訃報欄では、常に青山葬儀所の名前がみられた。

これまでどのような著名人が、ここで送られてきたのか。その規模感とともにみていきたい。(一)は参列者

石原裕次郎(約3万5千人)、美空ひばり(4万2千人)、忌野清志郎(4万人)、坂井泉水(6万人)、西城秀樹(1万人)、田中角栄(4千人)、小渕恵三(4千5百人)など。安倍晋三元首相の密葬は増上寺で行われたが、建て替えがなければ青山葬儀所で行われていたかもしれない。

しばしば著名人の葬式で注目を集めた青山葬儀所。だが、利用数は1990年代以降、下がり続けていた。建設から半世紀が経っていた老舗斎場だけに、設備の古さは最大のネックだった。以前のトイレは和式。会場の椅子は固定されており、空間の汎用性は低かった。待ち合いもレンタルのテントを張って対応しており、夏場や冬場の葬式は参列者を苦しめた。その割に利用料金は高く、8時間あたり84万円と、他の民間斎場と比べるとかなりの高額だった。2000年代に入り、年間の利用はわずか30件台に激減。これでは通夜を含めても1年間365日のうち300日以上は稼働していないことになる。



東京都では「大規模なお別れの会から家族葬まで、葬儀の規模にあわせた柔軟な利用を考えている。回忌法要や生前葬も対応できるようにする」としている。聞くところによれば、現状ではあまり大きな変化はみられず、旧葬儀所を踏襲する見通し。民間の葬儀社では家族葬専用ホールへの改修が進み、選択肢が限られてきている。青山葬儀所くらいはある程度の収容力があつたほうが、差別化が図られてよいかもしれない。葬式に限らず、シンポジウムや展示会、イベントなどの利用も柔軟に検討してもよいのではないか。いずれにしても新生青山葬儀所には、次代の葬送文化を牽引する存在であつてほしい。家族葬や直葬の流行によつて死のリアリズムが失われてきているいま、新生青山葬儀所に求められるのは「追弔を通じて、死をオープンにし、学んでいく場」なのではないだろうか。

2022年12月10日
フレジデント社
(僧侶/ジャーナリスト 鶴岡秀徳)

【東照公のご遺訓】

忍耐の中から様々な「気づき」を得た徳川家康に学びます。

②多勢は勢ひをたのみ、少数は一つの心に動く

現代訳：人数が多いと数に頼り油断が生じて力を発揮できないが、少数であれば団結力が増して力を発揮する。

人が多いとリーダーの目が届きにくいこともあつて「自分がやらなくても誰かがやってくれる」と考える人が少なからず出て、組織としての推進力が落ちてしまいがちになります。逆に少数の組織には、めざすべきゴールを示し、各々の役割を明確にすることで、より結束して普段以上の力を発揮できるということを伝えています。

語り愛

カレンダー

●二月のご命日●

「故人様と同じ日に、
こんな方がお亡くなりになっています…」
そんな一言をきっかけに、
傷心の喪主様へ、さりげないたわりのお声がけを。

一日 (火) 昭和十二年(一九三七年)

河東 碧梧桐(俳人・随筆家)

高浜虚子と共に子規門下の双璧と目された俳人。子規没後は、従来の五七五調の形にとらわれない新傾向俳句を提唱した。

二日 (水) 友引 平成二十一年(二〇〇九年)

山内 一弘(プロ野球選手・監督)

「シュート打ちの名人」と言われ、「大毎ミサイル打線」の中軸を担った強打者。

三日 (木) 明治三十四年(一九〇一年)

福沢 諭吉(教育家・思想家)

明治の代表的な啓蒙思想家であり、慶應義塾大学の創設者。著書『学問のすすめ』は明治初期における最大のベストセラーとなった。

四日 (金) 明治二十七年(一八九四年)

アドルフ・サックス(楽器製作者)

サクソフォーンを発明した、ベルギーの楽器製作者。生涯を通じて楽器製作とパリ音楽院でのサクソフォーン教育に携わった。

五日 (土) 平成十年(一九九八年)

高橋 竹山(津軽三味線奏者)

津軽三味線を全国に広めた第一人者。演歌歌手北島三郎の『風雪ながれ旅』のモデル。

六日 (日) 平成六年(一九九四年)

ジャック・カービー(漫画家)

アメリカン・コミック界の「キング」と称される。代表作は『ファンタスティック・フォー』、『キャプテン・アメリカ』、『Xメン』等。

七日 (月) 明治十八年(一八八五年)

岩崎 弥太郎(実業家)

三菱財閥の創業者で初代総帥。明治の動乱期に政商として巨利を得た最も有名な人物。

八日 (火) 友引 昭和三十二年(一九五七年)

ジョン・フォン・ノイマン(数学者)

現在のコンピュータの基礎を築いた天才数学者。二十世紀科学史における最重要人物の一人。

九日 (水) 平成元年(一九八九年)

手塚 治虫(漫画家・アニメーター)

ストーリー漫画の手法を確立し、日本の漫画表現の基礎を作った「マンガの神様」。代表作は『ブラック・ジャック』等、多数。

十日 (木) 大正十二年(一九二三年)

ヴィルヘルム・レントゲン(物理学者)

「X線」を発見したドイツの物理学者。この功績により、第一回ノーベル物理学賞を受賞した。

十一日 (金) 平成二十年(二〇〇八年)

中村 寅吉(プロゴルファー)

日本で初開催されたカナダカップで団体・個人ともに優勝し、日本の第一次ゴルフブームの礎を築いた日本プロゴルフ界の第一人者。

十二日 (土) 平成八年(一九九六年)

司馬 遼太郎(小説家)

独自の視点から、『竜馬がゆく』や『燃えよ剣』等多くの作品を発表し、その後の歴史小説に大きな影響を与えた。

十三日 (日) 平成二十年(二〇〇八年)

市川 崑(映画監督)

娯楽映画から実験的映画、テレビ時代劇まで幅広く手がけ、常に第一線で映画制作に取り組んだ巨匠。代表作に『犬神家の一族』等。

十四日 (月) 友引 平成二十四年(二〇一二年)

マイク・ベルナルド(キックボクサー)

キックボクシングイベント「K-1」で活躍。「南アフリカの豪腕」の異名をとり、アンディ・フグ等と共にK-1四天王として君臨した。

十五日 (火) 平成十九年(二〇〇七年)

ロバート・アドラー(発明家)

数々の発明で特許を取得。特にテレビ用の無線リモコンの開発で有名。

十六日 (水) 平成二十九年(二〇一七年)

ディック・ブルーナ (絵本作家)

「ミッフィー」の作者。1955年にシリーズの第1作『ちいさなうさちゃん』を発表。日本では1964年に出版された。

十七日 (木) 平成三十二年(二〇一〇年)

藤田 まこと (俳優)

コメディアン、俳優として活躍。『必殺』シリーズや『はぐれ刑事純情派』はアタリ役となり、ロングヒットを記録した。

十八日 (金) 永祿七年(一五六四年)

ミケランジェロ・ブオナローティ (芸術家)

西洋美術史上における最高の美術家の一人とされ、様々な分野で優れた芸術作品を残した「万能人」。代表作は『ダヴィデ像』等。

十九日 (土) 宝永六年(一七〇九年)

徳川 綱吉 (江戸幕府五代将軍)

「生類憐れみの令」等の悪政で有名であるが、学問好きで多くの儒学者を輩出した。

二十日 (日) 寛弘 昭和八年(一九三三年)

小林 多喜二 (小説家)

日本プロレタリア文学の代表的な作家。近年、代表作『蟹工船』が再評価され、若年層を中心にブームとなった。

二十一日 (月) 昭和十三年(一九三八年)

ジョージ・ヘール (天文学者)

太陽の観測のためのスペクトロヘリオグラフを發明し、太陽の磁場を発見した太陽研究における一大権威。

二十二日 (火) 昭和六十二年(一九八七年)

アンディ・ウオーホル (芸術家)

ポップアートを代表する人物であり、ロックバンドのプロデュースや映画制作なども手掛けたマルチ・アーティスト。

二十三日 (水) 安政二年(一八五五年)

カール・フリードリヒ・ガウス (数学者)

近代数学のほとんどの分野に影響を与えたと考えられている、十九世紀最大の数学者の1人。

二十四日 (木) 昭和九年(一九三四年)

直木 三十五 (小説家)

大正から昭和にかけて活躍した大衆作家。代表作は『南国太平記』等。没後、盟友・菊池寛により「直木賞」が創設される。

二十五日 (金) 昭和二十八年(一九五三年)

斎藤 茂吉 (歌人・精神科医)

アララギ派の中心人物の歌人。精神科医として活躍する傍ら、旺盛な創作活動を行い、生涯で全十七冊の歌集を発表した。

二十六日 (土) 寛弘 昭和三十三年(一九五八年)

横山 大観 (日本画家)

「朦朧体」と呼ばれる、線描を抑えた独特の没線描法を確立。日本美術院の創設にも参加した、日本画壇の巨匠。

二十七日 (日) 昭和十一年(一九三六年)

イワン・パブロフ (生理学者)

犬を使った実験で「条件反射」を発見。行動主義心理学の古典的条件づけに大きな影響を与えた。

二十八日 (月) 昭和十年(一九三五年)

坪内 逍遙 (小説家・評論家)

文芸評論『小説神髓』を発表し、勸善懲惡が基本だった当時の日本に西洋の近代小説観を広め、近代文学の誕生に大きく寄与した。

引き取り手がない「無縁遺骨」が増加 葬祭扶助件数は 昨年度過去最多に

身寄りがなく経済的に困窮して亡くなった人の葬祭費を行政が負担するケースが増えている。厚生労働省によると、2021年度は全国で4万8622件と過去最多となり、この10年で約1万件増加した。地域や血縁のつながりが薄れる中、高齢化で年間140万人が亡くなる「多死社会」が到来しており、引き取り手のない「無縁遺骨」が増えている。

生活保護法の葬祭扶助は、遺族が困窮して葬祭費を支出できないケースのほか、火葬費用を残さず亡くなった身寄りがいない人の場合も、家主や民生委員などの第三者が葬祭を執り行うと申請

すれば、行政が費用を負担する。20年度、全国で4万6677件の申請があり、支出の総計は97億円以上となった。同省社会・援護局保護課は「生活保護の人数は減っているが葬祭扶助の件数は増加している。身寄りのない人が増えている影響とみられる」という。22年度上半期も前年度を上回るペースで増加中だ。

都道府県と政令指定都市別でみると、件数が最も多いのは東京都。20年度は8338件で、5年前と比べると1721件増えた。葬祭扶助費は原則として都市部で約20万円と規定され、年間、約17億2千万円にのぼる。「ひとり暮らしの高齢者が増加している影響もある」（福祉保健局）という。

2022年12月29日
朝日新聞デジタル

沖縄の「長寿」ブランド崩壊か… 後退止まらぬ平均 寿命ランキング

沖縄観光の呼び水ともなっていた「長寿」ブランドが崩れ、「短命県」に転じる恐れが出始めた。2020年都道府県別生命表で発表された平均寿命では、男性は80・73歳の43位、女性は87・88歳の16位。

1985年の男女1位から、順位を落とすごとに「〇ショック」と表され、県が健康長寿の施策にてこ入れしてきたが男性はついに全国ワーストに陥る恐れも出始めた。県は2040年までに男女とも平均寿命日本一を目指す計画を立てているが、健康寿命の低下に歯止めがかかるか、感触はまだつかめていない。

前回の結果以後、県は

健診の受診率の向上や肥満対策、肝臓負荷を下げるアルコール対策の3点に注力してきたが、今回の死因別死亡確率では飲酒の影響が出やすい肝疾患が男女1位で、糖尿病や高血圧性疾患など、生活習慣病による疾患も上位に位置する。高齢化社会を支える若年・中年層ほど健康寿命にリスクを抱える状況だ。

県は早期の対応として、長寿を目指す行動計画「健康おきなわ21」の見直しを急ぐ。また、企業などが従業員の健康促進に取り組む「うちなー健康経営宣言」の普及で、若年・中年層などの働き盛りの男性を中心とした健康管理の意識付けに取り組むという。



2022年12月24日
琉球新報

相続手続きの費用 を無料一括見積り

ご遺族は、悲しみを抱えた中、多くの事務的な手続きを進めていかなければなりません。ただでさえ落ち着かない状態の中で、死亡届の提出や年金関係などの役所手続きはもちろんのこと、相続人の調査や遺産分割協議、不動産や銀行口座の名義変更といった煩雑な相続手続きを決められた期限内に行うことは、専門知識のない方にはハードルが高いことです。さらにひと口に相続手続きと言いますが、家族構成や財産状況などにより、必要な手続きは一人ひとり異なります。また、大半の方は専門家への依頼経験がなく、費用がどれくらい掛かるかもわかりません。そんなお困りごとの解決のために鎌倉新書（東京都）は、相続手続きの費用を専門家に無

料で一括見積依頼できるWEBサイト「相続費用見積ガイド」を開設いたしました。

サービスの流れ

①地域と見積内容を選択
お住まいの地域と、見積り内容を選択するだけで、簡単に見積依頼ができます。見積内容がわからないお客様は1分で必要な手続きを診断できるページもあります。

②専門家を選択

希望条件にあう専門家候補の中から選択して、見積依頼できます。

③見積を比較し依頼

最短で当日、依頼をした専門家が、直接お電話やメールで見積金額を提示します。複数の専門家に見積依頼が可能なので比較し、納得したうえで選ぶ事ができます。

2022年11月29日
PR TIMES
(株式会社 鎌倉新書)



お墓 & 納骨 情報あれこれ…



Space X社
と共同運航する
「宇宙散骨」

ロケットの打上
げが2023年
秋になる見通し

年間1000件以上の葬儀プロデュースを行う株式会社SPACE NTK（茨城県）が宇宙開発企業Space X社と共同で運航する宇宙散骨「宇宙SOH」のロケット打ち上げが、2023年秋頃になる見通しです。

ロケット本体に装着されたまま、Space X社の管理下の元、地球の軌道を5年～6年程周回し最終的に大気圏に突入し流れ星となるので、宇宙ゴミにはなりません。地球の軌道を周回中は位置確認もできて、星となつて輝いているので空を見上げればいつ

も大切な方と想いを語ることが出来ます。

世界初の特徴として

①一人一人の散骨もパウダー状にすることにより可能 ②ペットの散骨も1匹分が可能 ③オリジナル人工衛星（BOX）による宇宙散骨が可能となりました。今回打上げ特別企画として、通常の宇宙散骨は卵小1個分のご遺骨55万円から承るのですが、今回ティースプーン（2g）程になります。特別価格5万円（税込）でご利用頂くことが出来るようになりました。



2022年11月14日
@press
(株式会社SPACE NTK)

遺骨は郵送できる
こと、ご存知です
か？

別の所にお墓を移す「改葬」や今あるお墓を更地にする「墓じまい」が増えています。お墓の移動は市町村長の許可が必要ですが、国内で遺骨を送ることは法律で規制されていません。遺骨の配送を取り扱う業者は日本郵便のみです。

遺骨の郵送方法

通常のゆうパックと同じです。コンビニエンスストア、取扱店、郵便局の窓口や集荷サービスをご利用ください。料金は、通常のゆうパックと同じ計算で重さ、サイズ、距離により決まります。寺院に直接郵送して納骨してもらった場合には、埋葬許可証や改葬許可証を忘れずに同梱します。

お墓さがしHPより抜粋・編集

送るだけで歴史ある寺院がご供養

お遍路用品販売大手・

株式会社いっぽ一歩堂（兵庫県）は、四国八十八ヶ所第六番札所である「温泉山 瑠璃光院 安楽寺（徳島県）」と連携し、簡単に捨てるには忍びないお品、粗末には捨てられないもの、想いが詰まったご遺品、愛用品、仏具、お数珠や人形などをご供養する「いのりのお焚き上げ／還源」をサービス開始しました。当サービスでは、安楽寺の境内に新たに設置された専用の祭室で仏式にて僧侶が心を込めてしっかりとご供養の上、お焚き上げいたします。また、四国八十八ヶ所巡礼用の白衣や、納経帳、などの巡礼用品といったものもご奉納いただけます。

2022年12月1日
PR TIME'S
(株式会社いっぽ一歩堂)

世界のお葬式



呪術を行う 葬送儀礼 「インドネシア、 バヌアツ共和国」

日本はほぼ単一民族で構成されていますが、世界の国々では幾つもの民族、また部族が集まって構成されている国々もあります。インドネシアではイスラム教徒が多いですが、1万7500もの島々には色々な葬送習慣があります。コーヒールで有名なスマトラ島の一部では、亡くなった人の魂を鎮める為に、呪術師が招かれ、祈禱により死者を祀ります。

また、トラジャという地域では、生まれた村で死を迎えなくてはならないという風習があり、村以外の場所で死を迎えてしまった場合、祈禱師が死者を歩けるようにするとか。トラジャ族の男性は戦いにおいて、敵対部族の首を持ちかえることで豊作を呼び込むと考えられていたようです。生まれた村に死者を呼び戻すというのは、首をとられないようにするという独自のやり方と言えるでしょう。

南太平洋のシェパード諸島にあるバヌアツ共和国では、死霊が悪さをするのを防ぐために豚が生贄に捧げられるなどの習慣があります。これらはいずれも、亡くなった人の魂が恐ろしい霊と化して、生きている人に災厄をもたらすのを防ぐ意味合いを持っています。

今日は 何の日？

2月(如月・February)

1日(1953年)

日本初のテレビ
本放送開始

NHK東京テレビ開局祝賀式のあと舞台中継などを放送。日本初のテレビ本放送となる。

2日(1976年)

『徹子の部屋』
の放送開始

黒柳徹子が司会を務めるトーク番組。40年を超える長寿番組。初回のゲストは森繁久彌。

3日(1958年)

若乃花が
横綱に昇進

若乃花幹士(第65代横綱・貴乃花の叔父)が第45代横綱に昇進。栃錦と共に栃若時代を築く

4日(2004年)

「Facebook」が
開設される。

アメリカでサービスを開始。日本語版は2008年に公開。2012年9月にはユーザー数が10億人を超えた。

5日(1920年)

私立大学が認可

「大学令」が施行され、慶應義塾大学と早稲田大学が初の私立大学として許可される。

6日(2011年)

大相撲
八百長問題

日本相撲協会は2011年春場所の中止を決定。本場所中止は65年ぶりで、不祥事を理由とした中止は初。

7日(1998年)

長野オリンピック
開催

20世紀最後の冬季オリンピック。冬季オリンピックとしては、最も南に位置する都市で開催された。

8日(1887年)

郵便マークが
決定される

通信省のマークが「丁」に決定。6日後、カタカナの「テ」を圖案化した「ㇿ」に変更される。

9日(1948年)

初の国産ボー
ルペンが発売

「セーラー万年筆」が業界のトップを切ってボールペンを発売。ブームの導火線となる。

10日(1988年)

『ドラゴンクエストⅢ
そして伝説へ…』発売

ファミリーコンピュータ用のゲームソフト。量販店の前に数kmの行列ができるなどの社会現象を巻き起こした。

11日(1889年)

「大日本帝国憲法」
が公布

これを祝い考え出されたのが「万歳」の発声で、この日初めて「万歳三唱」が行われる。

12日(1968年)

世界初の
レトルトカレー発売

レトルトカレーの「ボンカレー」が大塚食品から発売。初めは阪神地区で限定販売であった。翌年5月から全国で販売。

13日(1875年)

「平民苗字必称
義務令」布告

すべての国民が姓を名乗ることを義務づけられる。

14日(1946年)

世界初の
コンピュータ公開

世界初のデジタル電子計算機(コンピュータ)がアメリカのペンシルバニア大学で公開される。

15日(2005年)

「YouTube」が
スタート

アメリカのカリフォルニア州で設立されたサービス。初めて動画が投稿されたのは同年4月23日である。

16日(1883年)

日本初の
天気図を作成

東京気象台が、ドイツ人気象学者の指導の下、7色刷りの日本初の天気図を作成する。

17日(1925年)

ツタンカーメン王
の墓が発見される

エジプトで発見。純金製の棺桶など3000点以上の品々が埋葬されており、「世紀の発見」と言われた。

18日(1950年)

第1回
雪まつり開会

「さっぽろ雪まつり」の第1回大会が開会。6つの石像を札幌市の中学・高校の生徒が制作。

19日(1907年)

日本初の自動車
運転規則制定

警視庁が日本初の自動車運転規則「自動車取締規則」を制定。スピード制限等が定められる。

20日(1997年)

大阪ドームが
完成

大阪市西区にある多目的ドーム球場兼複合レジャー施設。2006年から呼称が京セラドーム大阪になった。

21日(1872年)

「東京日日新聞」
が創刊

「毎日新聞」の前身。現存する日刊紙では最も古い歴史を誇る。世界初の新聞戸別配達を実施した。

22日(1989年)

「吉野ヶ里遺跡」が
確認される

佐賀県教育委員会の発掘調査で、吉野ヶ里に弥生時代の大集落が存在していた事が確認。

23日(1977年)

「きく2号」が
打ち上げ

宇宙開発事業団が種子島宇宙センターから打ち上げた技術試験衛星。日本初の静止衛星。

24日(1958年)

『月光仮面』の
放送開始

子供たちに圧倒的な支持を受けた正義の味方。平均視聴率は40%、最高で67.8%の記録を残す。

25日(1978年)

『未知との遭遇』が
日本で公開

『未知との遭遇』が公開され、SF映画ブームの火付け役に。同年に『スターウォーズ』も公開されている。

26日(1914年)

パナマ運河開通

太平洋と大西洋を連絡する運河。当初はフランス人技師が工事を進めていたが失脚。アメリカが引き継ぎ完成させた。

27日(2005年)

八甲田トンネル
が貫通

東北新幹線の戸十和田駅から新青森駅間にある新幹線専用かつ世界最長の陸上トンネルで、全長26kmを超える。

28日(1964年)

『オバケのQ太郎』
連載開始

週刊少年サンデーで『オバケのQ太郎』の連載が始まる。その後アニメ化され、ブームとなる。

